

# 旧石器時代



旧石器時代の調査では、4区東側の渋田川に向かう斜面に位置する旧石器拡張区の L1S 相当層～ B0 相当層にかけて槍先形尖頭器や局部磨製石斧、細石刃などが出土しました。石材は、凝灰岩と黒曜石がほとんどでした。

また、4区西側のやせ尾根状の台地上に位置するプレマス（試掘をした調査区）4・プレマス5からは、L1H 相当層下層～ B1 相当層上層にかけてナイフ形石器が出土しています。石材は、ガラス質黒色安山岩やチャートが多く認められました。



4区 プレマス5 遺物検出状況（南から）



4区 旧石器時代全景（東から）



4区 プレマス4 遺物検出状況（西から）



4区 旧石器拡張区遺物出土状況（東から）



槍先形尖頭器出土状況



局部磨製石斧出土状況



ナイフ形石器出土状況



一般国道 246 号線（厚木秦野道路）建設事業に伴う発掘調査

にしとみおか ながたけ

## 西富岡・長竹遺跡 第7次調査（伊勢原市No.14 遺跡）

令和6年度 見学会資料

主催：公益財団法人かながわ考古学財団  
共催：伊勢原市教育委員会



### 西富岡・長竹遺跡の発掘調査

西富岡・長竹遺跡は、上粕屋扇状地を東西方向に流れる渋田川とその支流に挟まれたやせ尾根状台地の南東側に位置しています。調査地点の標高は約 52～54mを測り、南東方向に緩やかに傾斜しています。国土交通省の一般国道 246 号線（厚木秦野道路）建設事業に伴い、2023 年（令和 5 年）4 月から発掘調査を実施しています。

これまでの発掘調査からは、近世から旧石器時代に渡る遺構や遺物が検出されています。今回の見学会では、令和 6 年 11 月から発掘調査を開始した 5 区の発掘調査状況、5 区隣接地で調査を終了した 4 区の縄文時代や旧石器時代の調査成果を写真パネルや遺物展示などでご紹介します。



### 近世



近世では、畝状遺構と区画溝と推測される溝状遺構や道状遺構が確認されています。

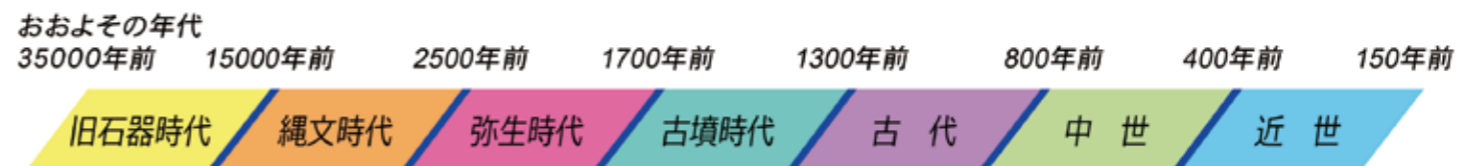
溝状遺構は、遺構覆土の観察から西暦 1707 年に噴火した富士山の宝永スコリア降灰以前・宝永スコリア降灰時・宝永スコリア降灰後の 3 時期にわかれることが確認されており、いずれの時期もここが耕作地として利用されていたと考えています。



畝状遺構検出状況



畝状遺構完掘状況



※注 本資料の内容は発掘調査段階のもので、今後の調査成果や出土品整理・分析等により評価を変える場合があります。

一般国道 246 号線（厚木秦野道路）建設事業に伴う発掘調査

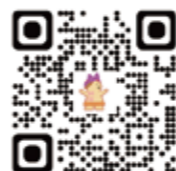
## 西富岡・長竹遺跡 見学会資料

2025（令和7）年1月25日

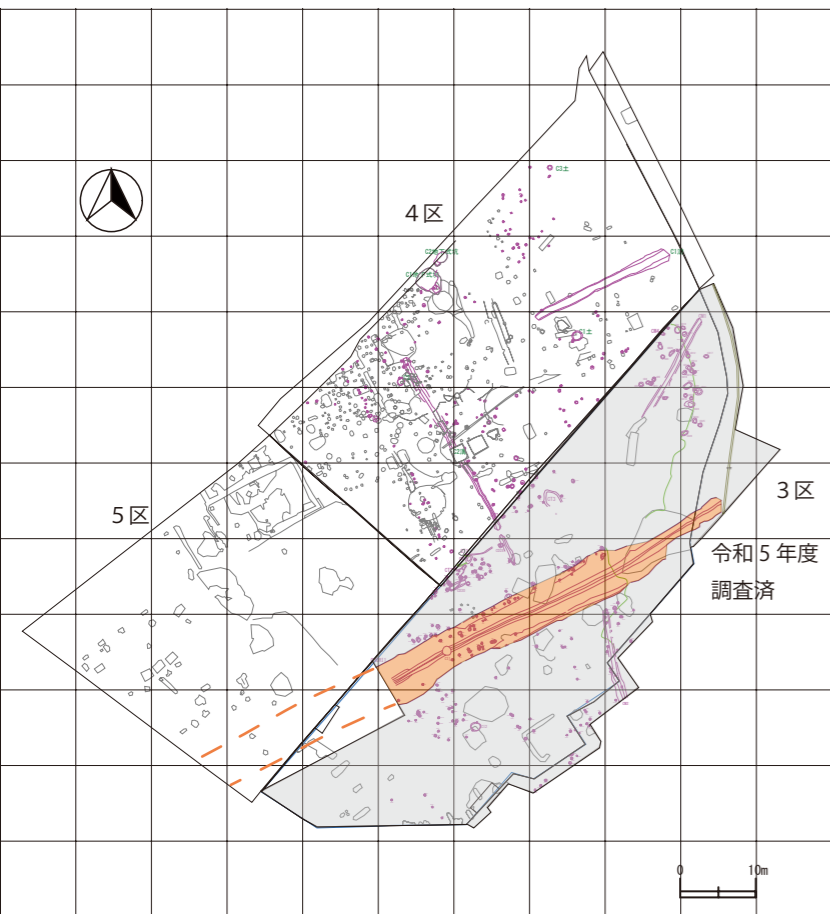
公益財団法人かながわ考古学財団

〒232-0033 神奈川県横浜市南区中村町 3-191-1

tel 045-252-8689 HP <https://www.kaf.or.jp>

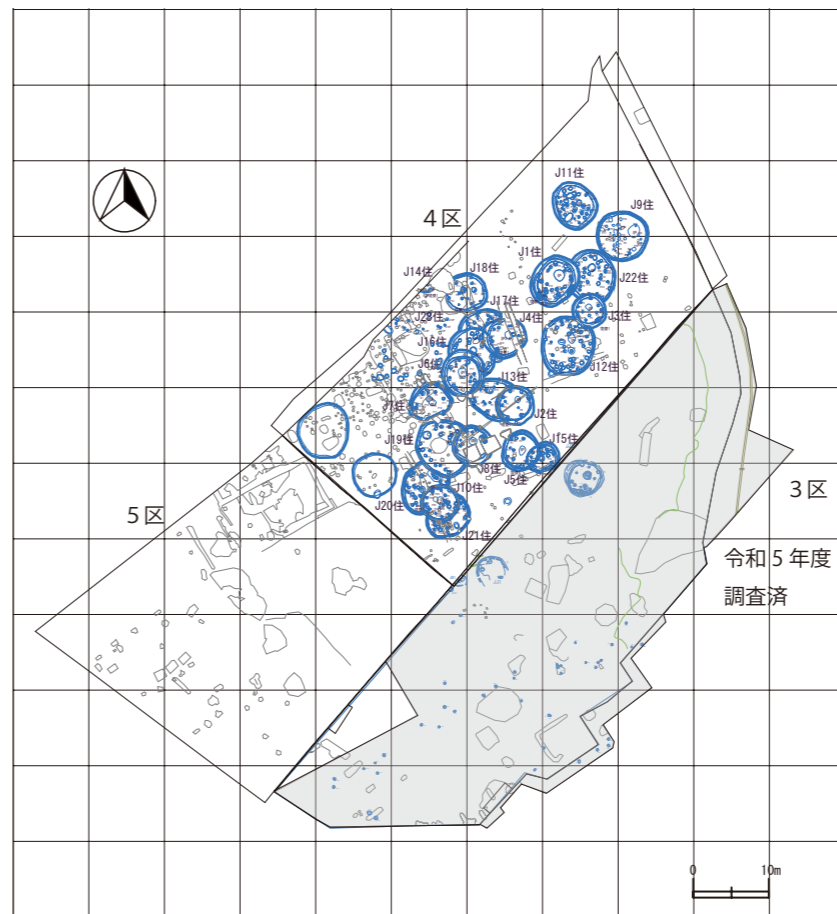






中世 遺構配置図

昨年度調査を実施した3区から検出されたほりじょういこう  
堀状遺構は、渋田川とその支流に挟まれたやせ尾根状の台地を南北に分断するかたちで確認されています。堀状遺構の規模は、東西方向に長さ約60m、幅約6m、深さ約2.8mを測ります。断面はV字形、急角度で立ち上がります。遺構は、東側の低地に向かって伸びており、低地に移行する付近で堀状遺構がなくなることを確認しました。断面の形状から、防御的な性格を有した遺構であった可能性も考えられます。遺構内からは、14世紀中～後半の古瀬戸の四耳壺が出土しています。堀状遺構は今年度調査を実施している5区に伸びており、調査成果が期待されます。



縄文時代 遺構配置図



4区 縄文時代全景



3区 堀状遺構完掘状況 (東から)

縄文時代の調査では、縄文時代中期後半の**そりしき** 曽利式土器を伴う**たてあなじゅうしよあと** 竪穴住居跡が23軒確認されました。前年度に調査を実施した隣接する3区の調査からも同時期と考えられる竪穴住居跡が2軒発見されています。

今回の発見により西富岡・長竹遺跡に縄文時代中期後半の集落が営まれていた事がわかってきました。発見された竪穴住居の規模は、直径約8mをという大きな住居跡から直径約4.5mの小さな住居跡まで様々な大きさの住居跡が確認されています。炉は床面を掘り窪めた**くぼ** 地床炉や炉の縁辺に石を配置した**いしがこ** 石囲い炉が確認されています。

また、**うめがめ** 埋甕を伴う住居も確認されました。J1号住居跡からは2基の埋甕が確認されており、住居の拡張が行われたと考えています。



J1号住居遺物出土状況



J3号住居石囲い炉



J1号住居1号埋甕



J7号住居埋甕



J1号住居遺物出土状況



J15号住居地床炉

**埋甕とは**  
住居の出入りに埋設された**ふかばちがたとき** 深鉢形土器のことです。土器には子供の**たいばん** 胎盤を入れたという説もあり、その上を踏んだり跨いだりすればするほど子供は丈夫に育つという風習があったという説もあります。

